

平成23年度第1回流山市生涯学習審議会会議録（要旨）

1 日時

平成23年6月7日（火）14時00分～16時05分

2 場所

流山市役所 庁議室

3 議事

（1）委嘱式

（2）委員紹介

（3）教育長あいさつ

（4）職員紹介

（5）「次世代を担う青少年を育てる地域環境づくり」

（流山市生涯学習推進基本構想第2節）の具現化について

（6）その他

4 出席委員

・小林委員・佐々木委員・川上委員・山口委員・辻野委員
・丹野委員・宮本委員・生天目委員

5 欠席委員

・杉山委員・濱田委員・石川委員・岡林委員・大橋委員

6 事務局

・友金生涯学習部長、直井生涯学習部次長兼生涯学習課長
戸部公民館長、鈴木図書・博物館長、渋谷生涯学習課長補佐
須田図書・博物館次長、梅次青少年指導センター所長、菊本係長
山下主任学芸員

7 傍聴者1人

8 会議録

14：00開会

（小林議長）

会議が成立していますので、開会します。

傍聴人の有無の確認後、全員の同意を得て傍聴人入場。

(事務局)

資料 1 説明。

資料 2 説明。

(小林議長)

二つの資料の説明があり、流山市の子ども・若者の比率は全国平均に近い。しかし流山市の方が右上がりになっているのではないか。

(事務局)

流山市の人口は、年間かなりの数で増えている。

つくばエクスプレス沿線の住民誘致、団塊世代の支援のもと、子育て世代の30代の引越しが多い。

(小林議長)

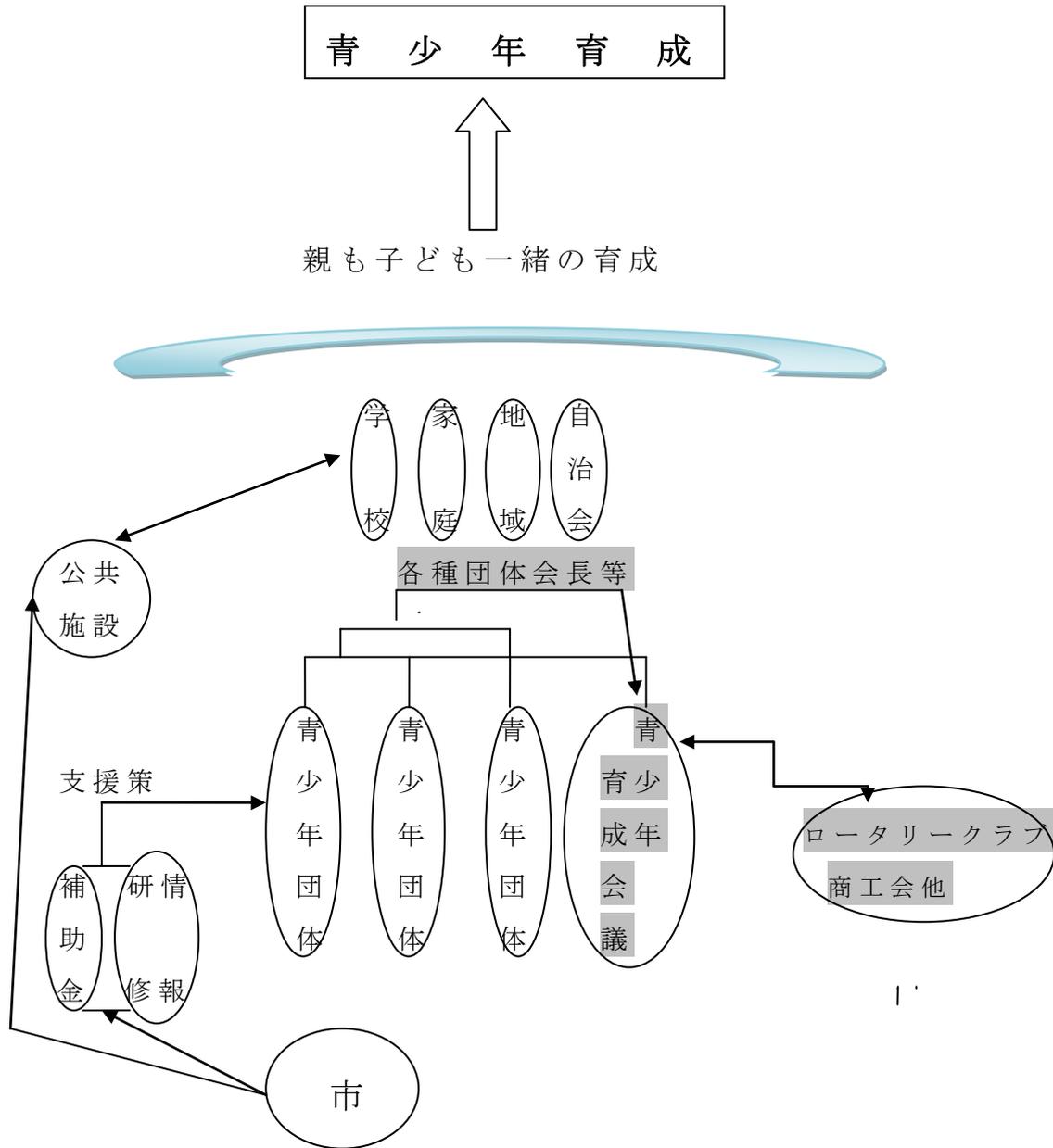
資料 1 をまとめると、人口変化の状況、学校では、いじめ、不登校、暴力の問題。社会では、ニート、引きこもり、情報過多の問題。学校から社会へ進むうえでのキャリア教育の必要性などが書いてある。

今年度の審議会の目標は、以前まとめた生涯学習基本構想の4つの柱の中の2節青少年健全育成に焦点をあてていく。

また、市が進める事業と事業概要の中で、継続、新規とあるが、継続の物については評価、新規の物については検討が必要という意見もあった。

今後3回の審議会で、資料2の中で幾つかの事業について、市ではどう考えるか、また皆さんの現状認識をバックグラウンドにして踏み込んで議論して行きたい。

2節を一度に議論するのではなく、少しずつ理解し、より良い方向に動きたい。



青少年を取り込む社会環境は、こんな構造になっている。
資料2の「現状、課題」を読んで何か意見ありますか。

(辻野委員)

子ども会は自治会の中で色々なイベントを組んで、活動している。
その辺はどうなっているのか。

(事務局)

先に述べた、流山市に子ども会が2団体しか無いと言うのは、独立した子ども会で、市、県の組織の中に入っている団体数である。

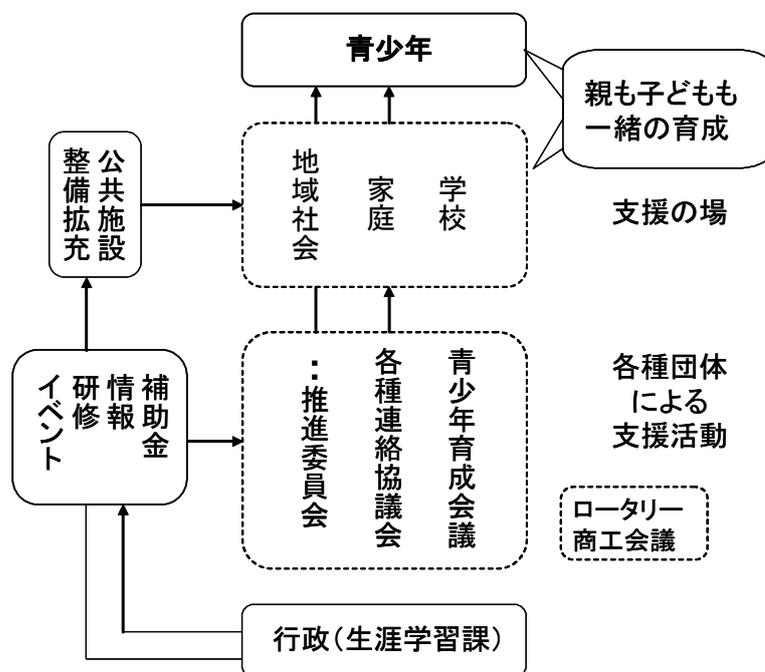
かつては自治会があって、婦人会、成年団、子ども会と年代別の活動がされていた。今は、ほとんどの子ども会が自治会の一部になって活動しているため、事業の硬直化につながったのではないか。

(小林議長)

青少年に働きかけるルートとして、学校、家庭ともう一つ地域、自治会がある。

(辻野委員)

自治会の会合に出て聞えてくるのは、子どもが集まらず、昨年までできていたイベントが出来なくなる。育成するには人集めが必要だが、現状は呼びかけても集まらない。



青少年の健全な成長支援の仕組み

(小林会長)

ご意見がありますか。

(川上委員)

子どもを育てる中心は、家庭、学校であり、ボーイスカウトや子ども会などの団体は、祖父母の様な関係と同様に、子ども達にとって別のポケットのような存在で大事にしたい。

ボーイスカウトでも人数を確保するために、色々なイベントを開催しているが、子育てに熱心なご家庭が増えているように思うが、もっと地域で子ども参加の事業を取り入れ、子供の育成をして行くことが大事。

(小林会長)

川上委員のご指摘は2ページの青少年健全育成団体の支援に書いてある部分ですね。

(川上委員)

「イクメン」の言葉が流行っている。育児を楽しむお父さんのことで、一生懸命に子育てをする家族が増えているように思う。

(丹野委員)

質問ですが、ここに並んでいる団体の中に加わっている子どもがどの位いるのか。例えば、その内小学生が何パーセントなのかと言うことが大事だと思う。

(生天目委員)

社会教育団体に入っている子どもの調査はしていない。数々の習い事をし、学校ではクラブ活動をしている子ども達が社会教育団体に入っているのか。調査してみる価値は有る。

(丹野委員)

例えば、スポーツ少年団と言っても、激しいスポーツをしている。日曜日でも子ども達は遊んでいない。

地域は生涯学習の関係になるが、団体を絞って考えた方が良いのではないか。自治会の中に子ども会があると、地域住民と子どもの関係が重要だ。

(生天目委員)

かつて、家庭の日、青年の日があり、その日は部活が有っても基本的には家庭で過ごす。今は、大会等が多く時間的に難しい現状である。

(事務局)

部活動までの把握はしていない。

(生天目委員)

社会教育団体でも、家庭の日、青少年の日には事業を行わないのか。

(事務局)

意識はしていない。

(小林会長)

青少年の健全育成で補導と安全の部分の事業は継続していますが、それは良い方向に動いていますか。

(事務局)

補導パトロールの中では、喫煙、飲酒については0に近い状況である。

(小林会長)

審議会として、補導や安全については従来どおりで良いと思う。

(山口委員)

先日行われた「まなびふれあいまつり」は2回目で、前回より大きく、質を上げたものになっていた。

様々な子ども対象にした催しや、芸能人の参加等で大盛況だった。

ガールスカウト、体育指導員の方々の参加もあった。ただ、流山市の人口から見るとまだまだ少ない。学校、自治体では無く、既存から出たものと融合させ、もう少し工夫されたものが必要ではないか。

このイベントから、子どもと親が何かを得て次に広げて欲しい。

(宮本委員)

駅などで見かける「父になるなら流山」、「母になるなら流山」をみると嬉しくなる。流山市は、「父になるなら流山」の言葉に対して、どんな取り組みをしているのか。

(事務局)

市が住民誘致のため、働きながら子育てが出来る街との思いで作った有料広告で「父になるなら流山」「母になるなら流山」の2パターンがある。

先程の「まなびふれあいまつり」は、子どもと家族をお客にし、ガールスカウト、体育指導員、市民団体などの協力で、準備を重ねて出来たイベントである。

今までは、子どもと大人と一緒に準備する形だったが、これからは、この様な形のイベントも必要と考えている。

(佐々木委員)

基本構想の34ページのアンケート調査の中で、16、17番の幼稚園や保育園の整備充実、小中学校の施設の充実の率は上がっているが、20番の青少年の健全育成の率が下がって来ている。その理由が解っていれば教えてほしい。この辺がヒントになると思うが。

(事務局)

流山市では青少年問題をどう考えるか、審議する事になったが予算は表れていない。

青少年育成会議、青少年相談委員連絡協議会、子ども会育成連絡協議会などの団体が、各種事業で子どもを募集して行っているが、ここに入らない子ども達をどうするかが、まだあいまいになっている。

(小林会長)

昨年まで、市の企画に対して評価、批判があった。生涯学習では団体への参加率での評価、このような評価の指標だけでは良くないように思う。

今後は、「ここが上手くいったので、この地域の青少年育成が上手くいった」と言うように、審議会で議論を重ね、「流山市ではここを上手くやれたので、青少年教育が上手くいっている」と県や国に言えたら嬉しいし、そういう提言が出来たらと思っている。

急いで答えを出す必要はないが、私たちのやっている事が青少年の育成に効果を上げたと言えるように進めて行きたい。

(辻野委員)

22年度の流山市青少年主張大会で流山北高校の生徒の「柏と私と町会と」の主張で、町会に参加する事は部活に参加する気持ちと同じ。

との主張に感心した。

子ども達は学校の時間、家庭の時間、地域での時間をどう配分して生活しているのか。そんな子どもたちが他の活動に参加した時は、部活動に参加したと認める発想があっても良いのではと感じた。

(小林会長)

大学でもボランティア活動を単位に認める場合がある。

(辻野委員)

学校での時間が増えている現状で、自由な時間はバーチャルな時間に費やし、リアルティの時間はあまり無いため、他の活動に入っていくのは難しい。

(生天目委員)

青少年の健全育成は、そこに大人が関わり、市が関わって皆で育てて行くことが大事。

親が共働きの子どもは、3年生まで学童に行ける。学童から家に帰っても親が居ない場合は、さらに習い事に行くケースがある。ある意味第三者に育ててもらっている感じがする。

最近感じる事は、サッカーなどスポーツクラブの低年齢化で、1年生、2年生が土曜、日曜に通っている。大変だと思う。

(川上委員)

大きく考えると家庭、学校、地域でも、子どもを立派な大人に育てたいと思っている。子育ては、それが大きな目的であると思う。子どもが何か始める時も、やめる時も、親の影響が強いので、是非親には子育ての専門家のお話を伺ったり、指導などを受けられ、子どもたちは色々な体験ができる機会を市の方でも作っていただきたい。

(小林会長)

子どもと親が健全に育って行くような市の企画がありますか。

(事務局)

公民館行事としては、夏のキャンプや北部公民館の宿泊と自然体験など、ボーイスカウト、江戸川大学の学生の方々の協力で行っている。

子ども探検教室や親と一緒に鈴虫鑑賞会、竹炭の体験、野外炊飯なども行っている。いろいろな事業を体験し大人も変わって行くことが、青少年教育に影響を与えると思う。

また、家庭教育の重要性を考え、市内の小中学校やPTAの協力で家庭教育講座を開催している。これらが青少年施策に貢献が出来たらと思う。

これからも、子どもと親と一緒に地域との交流やいろいろな体験が出来るイベントを各種団体の協力を得て企画したいと考えている。

(小林会長)

「子どもと親を健全育成して行く」、一つの方向性が見えて来たようですね。

公共施設が生涯学習の大きな位置付けになっている。

(山口委員)

若い親たちは祖父母の手助けを期待し、同じところに立って子育てをしている。子育てをする親の考えが変わって来たようだ。

私たちも世代間の在り方を勉強することによって、多くの問題が解決して行くと思う。

(小林会長)

親と子が、子育ての専門家など第三者の指導を受け、テーマや環境の中で、一緒に考え進んで行くことで流山の特徴が出てくると思う。

(生天目委員)

学校の入学式や運動会の行事に祖父母の手伝いや参加が多くなっている。ありがたいと思っている。

(丹野委員)

公民館は良い仕事をしている。

バードウォッチングも大きなグループで活躍しているので、子ども達

も参加させ、育成に結び付けてはどうか。

(小林会長)

親子でふれあう日を増やして行くのは、千葉県の方針ですか。

(事務局)

家庭の日は、九州から始まり全国に広まった。

県下で行われている事業で制定されているので、その意に合うように進めたい。

(小林会長)

生涯学習課ではどうですか。

(事務局)

青少年育成ボランティアの人材登録制度に、現在200人弱が登録しているが、活用されていない。この登録制をリニューアルし、公民館や生涯学習センターの自主事業の講師としても使えるように、人材活用システムを検討している。

(仮称)子どもの楽習で、学校の余裕教室を地域の自治会のサークル活動などに開放し、子どもと一緒に物作りなどしながら心の交流の場が出来たらと思い提案したが、余裕教室がない状況にある。

新しく27年度に小中一貫校が出来るので、この学校で活かして行くことが出来たらと思う。

(小林会長)

流山の人口が増えて、余裕教室より新しい学校を造る必要もありますね。

(宮本委員)

八木南小に空き教室があります。

(事務局)

子どもの少ない学校は八木南小だけですか。

(生天目委員)

八木南小と西深井小でしょうか。

(小林会長)

事業区分の新規とは、将来を見ながらやって行く事業で、今年、来年で完全な形で実施して行くとは限りません。新しい学校が出来るまでに、地域とどう上手く連携してやって行けるか、考えると良い企画になると思う。

次にげんき村キャンプ場についてどうか。

(事務局)

子ども会等に呼びかけ事業の確認をし、今年度中にディキャンプを実施する。

(小林会長)

最後にサイバーパトロールについても説明してください。

(事務局)

事業名は、サイバーパトロールとなっているが、実際に中・高生のプロクをチェックしたので、今年度からは、プロクチェックとして、昨年度から始め、今年度は正式に進めます。

青少年相談については、中・高生の不登校が継続し、ニート、引きこもりになって行く傾向にある

これに対応するため、他の機関との連携、相談室では進学、就職先の検討などを重点施策にして行く。

(小林会長)

新規については動き始めている。

継続、新規の各事業の個別問題については、本日は具体的に議論がされていないが、子どもの健全育成とは、大人が関わって育成して行くことであり、親と子ども、専門の指導者と子どもの関わりを具体的にどう考えて行けば良いのか、という問題認識が今日の話であった。

